

平成 23 年度
植山つる児童福祉研究奨励基金
募集要項

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

1. 趣 旨

児童福祉の実践処遇の仕事に情熱をもやし、自らの技術と専門性を高めるために積極的に研究活動に励む保育士等職員の研究活動を奨励するために、研究費の一部を助成する(研究期間は1年間とする)。

2. 対 象

研究 A(自主研究)

- ・ 児童福祉施設に働く職員。(個人・施設・グループ・団体)
- ・ 児童福祉に関する自主研究。

研究 B(専門研究)

- ・ 児童福祉施設に働く職員。(施設・グループ・団体)
- ・ 児童福祉に関する自主研究であり、すでに基礎的な研究を終了し、さらに成果を発展させるための共同研究であること。ただし、学識者の協力を条件とする。

※個人を除く。また、今年度内に、同じ研究テーマで、他の研究助成の対象となっている場合も除く。

3. 助成金額

研究 A(自主研究) 各研究助成額は 20 万円以内。

年間助成総額 100 万円の予算において、若干名に助成。

研究 B(専門研究) 研究助成額は 100 万円以内。年間 1 件のみの助成。

4. 申請方法

助成希望者は、当基金所定の申請書(P. 8～)に必要事項をご記入の上、下記の植山つる児童福祉研究奨励基金・事務局宛に提出。

5. 申込み締め切り

平成 23 年 9 月 23 日(金) 必着

6. 研究報告

助成対象となった研究は、その研究成果の報告を所定の様式にご記入の上、植山つる児童福祉研究奨励基金運営委員会に提出する。その他、成果物等があれば添付すること。その成果については、各種別協議会の大会・研修会、また機関紙等で発表の場を設ける。

7. 研究報告書の提出締め切り

平成 24 年 8 月 31 日(金) 必着

8. 申込み先

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 児童福祉部
植山つる児童福祉研究奨励基金運営委員会
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
Tel : 03-3581-6503 Fax : 03-3581-6509

9. 選考について

植山つる児童福祉研究奨励基金運営委員会において選考・決定し、選考結果は平成 23 年 10 月末に申請者宛に通知する。

《運営委員》(敬称略)

- | | | |
|-----|----------|----------------------|
| 委員長 | ・ 柏女 霊峰 | (淑徳大学 教授) |
| | ・ 佐藤 秀樹 | (全国保育協議会 副会長) |
| | ・ 尾形 由美子 | (全国保育士会 副会長) |
| | ・ 側垣 二也 | (全国児童養護施設協議会 副会長) |
| | ・ 都留 和光 | (全国乳児福祉協議会 制度対策研究委員) |
| | ・ 菅田 賢治 | (全国母子生活支援施設協議会 副会長) |
| | ・ 山田 秀昭 | (全国社会福祉協議会 事務局長) |

10. 著作権について

研究論文の著作権は、著者(研究者)に帰属する。また、研究論文集等作成する際の編集出版権および複製権は、全国社会福祉協議会が持つものとする。

11. 個人情報の取り扱いについて

申請書に記載された個人情報は、本研究奨励基金における運営管理の目的のみの利用とする。

12. お問い合わせ先

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 児童福祉部（担当：今井・岡澤・津田）

Tel:03-3581-6503 Fax:03-3581-6509

E-mail: ueyama-turu-fund@shakyo.or.jp

URL : <http://www.shakyo.or.jp/>

※ 申請書は、全国社会福祉協議会のホームページからもダウンロードできる。

故 植山つる(うえやま つる)氏のあゆみと本事業について

故 植山つる氏は 1907(明治 40)年、現在の福井県敦賀市に生まれました。1930(昭和 5)年、日本女子大学社会事業学部を卒業後、聖路加国際病院医療社会部ケースワーカーを経て、翌年、当時の東京市社会局保護課訪問婦(ケースワーカー)になりました。

1946(昭和 21)年には厚生省嘱託となられ、さらに 1959(昭和 34)年からは児童局母子福祉課長を務められました。また、1960(昭和 35)年からは、中央児童福祉審議会幹事に併任、1965(昭和 40)年には、総理府中央青少年問題協議会専門委員に任命されました。その後、後世の社会福祉専門職の育成に励まれ、1967(昭和 42)年に淑徳大学教授、さらに名誉教授に就任されました。

本事業は、故 植山氏からのご寄付により、保育者の専門性を高めるための研究活動を奨励することを主旨として、1978(昭和 53)年に「植山研究奨励基金」として発足いたしました。今日では、児童福祉施設に働く保育士並びに児童指導員等職員に対象を拡大し、「植山つる児童福祉研究奨励基金」と名称も改め、広く研究活動の奨励が図られています。

植山つる児童福祉研究奨励基金 過去 10 年間の助成決定テーマ

研究テーマ	研究主体	年度
サービス水準に対する利用者の認識と満足度調査	母子福祉協議会 調査委員会	13 年度
児童養護施設における情緒的課題を持つ児童への援助に係わる実践的研究	児童福祉施設連 盟養護部会	13 年度
児童福祉におけるケースマネジメント —子どもの権利を守るネットワーク作り—	保育所・乳児院	13 年度
母子生活支援施設の施設内外への援助の展開に関する研究—母子生活支援施設入所者と地域に暮らす母子家族との比較を通して—	母子生活支援施設	14 年度
平成 14 年度東京の母子生活支援施設実態調査	母子福祉部会 調査研究委員会	14 年度
罹患時における子どものトータルケアのあり方についてⅡ—安静を保ちながら、子どもの症状、発達に合わせて出来る遊びの工夫—	乳児院	14 年度
【職員にとっての子どもの権利養護必携ノート】の必要性の調査と作成	児童養護施設	14 年度
千葉県母子生活支援施設における福祉サービスの『第三者評価』に向けた「評価基準」	母子生活支援施設	15 年度
児童養護施設児への金銭教育	児童養護施設	15 年度
全国自立援助ホームの実践紹介—自立援助ホームにおける「自立援助」とは何か—	自立援助ホーム	15 年度
地域で求められる子育て支援について	保育所	15 年度
反応の乏しい児の乳児期から幼児期にかけてのわらべ唄遊びによる成長発達の変化	乳児院	15 年度
児童養護施設児への金銭教育	児童養護施設	16 年度
心理療法的側面による事例研究	母子生活支援施設	16 年度
社会福祉施設における社会福祉士実習指導のあり方について	母子生活支援施設	16 年度
楽しく食べて生命輝く子どもに—乳幼児期からの食習慣を大切に し、食への関心を高めるために—	保育所	16 年度
気になる子どもを通して、保育者の援助のあり方を考える—生活 リズムと運動遊び—	保育所	16 年度
乳児院における問題行動とその要因に関する研究	乳児院	16 年度
地域小規模児童養護施設における自立に向けての成長プロセス	児童養護施設	17 年度
「気になる」子どもへの保育支援について—個と集団を捉える保 育者の視点から—	保育所	17 年度
社会福祉施設における社会福祉士実習指導の標準化に向けた検証	母子生活支援施設	17 年度
新たな社会的養護としての地域分散型サテライト児童養護の実践	児童養護施設	17 年度

アナフィラキシーショック既往歴がある子どもの食事と、他児との違いが気になりだす年齢からの心理的ケア	保育所	18年度
幼児の生活と疲労に関する研究—朝の快いスタートと生き生きとした生活実践のための保育プログラムの検討—	保育所	18年度
児童養護施設における外泊に関する研究—縦断的検討も含めて—	児童養護施設	18年度
大阪市の児童入所施設における処遇指標（平成12年度版）の再検討（今日的課題）	児童養護施設	18年度
母子生活支援施設における効果的な自立支援計画策定に関する調査研究	母子生活支援施設	18年度
「気がかりな子ども」に対しての個々の環境を考える—子ども達にとって育ちやすい環境とは—	保育所	19年度
違いを認め、理解しあう保育・一人ひとりが主人公になれる保育支援を目指して—クラス集団にかえす小グループ保育の研究・実践—	保育所	19年度
児童養護施設における入所児童と家庭との交流の経過に関する研究—退所したケースの検討も含めて—	児童養護施設	19年度
グイン・ホームにおける、被虐待児と発達障害児の自立支援計画の作成	児童養護施設	19年度
社会的養護入所児童の自立援助計画表の標準化に関する研究—乳幼児期に焦点をあてて—	乳児院	19年度
幼老複合施設における高齢者と幼児の世代間交流の効果に関する研究	保育所	19年度
大学との連携による食育活動	児童養護施設	20年度
家庭における育児不安や、親の悩みなどについての実態調査	県保育協議会	20年度
昼寝後の午後保育の見直しと一日の保育の再検討—保護者とのかわりの中で—	保育所	21年度
母子生活支援施設における母親及び児童のためのエンパワメントプログラムの実践と効果—	母子生活支援施設	21年度
ユニット型児童養護施設における施設環境が子どもに与える影響の研究	児童養護施設	21年度
気になる子ども（配慮を必要とする子ども）に対する効果的なかわり方	保育所	22年度
児童養護施設における児童間性的虐待の加害児童と担当職員へのグループ治療教育プログラムの実践研究	児童養護施設	22年度
児童養護施設における心理アセスメントに関する調査研究～ケアワークとの協同支援を考える～	児童養護施設	22年度
母子生活支援施設における退所後地域生活を見据えた生活支援と就労自立支援	母子生活支援施設	22年度
自立援助ホームにおける利用者の進学状況及び就学支援の実態調査	児童養護施設	22年度

平成23年度植山つる児童福祉研究奨励基金申請書(研究A・自主研究)

フリガナ 申請者氏名	(印)	職名	経験年数	年	ヶ月
所属施設名					
所在地	〒				
	TEL:	FAX:	E-mail:		
研究テーマ					
共同研究者 氏名・役職名					
研究課題・意義 ・児童福祉の実践処遇の中で、現在どのようなニーズや課題があり、それを解決することに何の意義があるのかを具体的に述べてください。 ・その課題についての先行研究があれば、それと関連付けて記述してください。 ・専門用語や造語を多用せずに、明確な文章を心がけてください。					
研究方法 ・研究課題に対応させる形で、その研究方法を述べてください。 ・抽象的に「～についてアンケートを行う」「ケース検討を行う」だけではなく、具体的な質問項目やケース検討のメンバー構成・内容・時間等についても明確に記述してください。 <input type="checkbox"/> 倫理的配慮が必要な研究の場合、それへの対策も述べてください。					
(This area is left blank for the applicant to provide detailed information for the research topic, methodology, and other sections.)					

年間スケジュール

・研究のタイムスケジュールを具体的に書いてください。

10月	4月
11月	5月
12月	6月
1月	7月
2月	8月
3月	9月

予想される成果・実践への貢献

・本研究により予想される成果や、実践に対してどのような効果・貢献が期待できるかを具体的に述べてください。

研究のアピール

・本研究の将来への見通し・展望、また、本研究の特色・オリジナリティ・アピールポイント等について、自由に述べてください。

経費計算および助成希望金額

・助成対象の項目は、謝金、旅費、印刷製本費、会議費(研究にあたり必要不可欠な食事や飲み物等)、賃借料、備品購入費、その他(特に研究に必要とされるもの)としてください。

・助成希望金額の支出の大半が、会議費や備品購入費とならないように記入してください。

(収入の部)

・ …… 円
 ・ …… 円

(支出の部)

・ …… 円
 ・ …… 円

○助成金の主な使用用途

○助成希望金額 円

※必ず、申請書の分量はこれに収まるように記入してください。